

**The International Society of Life Information Science (ISLIS)**  
**The 34th Symposium on Life Information Science**  
**“Seeking a New World View Which Can Explain Wonderful Phenomena” VI**  
**At Fuji Calm, August 17-20, 2012**

**一般人を含め、楽しい合宿の6回目です。**

第34回生命情報科学シンポジウム <http://www.islis.a-iri.org/>

学術部門：第34回国際生命情報科学会 (ISLIS) 学術大会

一般部門：第34回生命情報の科学フォーラム

**2012年8月17-20日 (金-月) 合宿討論 VI**  
**不思議現象を説明出来る「新しい世界像」を求めて**

ミニシンポ、 オプション・セミナーなど

於 **富士 Calm**(カーム) <http://fujicalm.jp> =人材開発センター富士研修所(元経団連研修所)

電話: 0555-22-5156 山梨県富士吉田市新屋1400 富士浅間神社 徒歩5分

**ご参加募集中・夜の自主交流会主催者募集中**

(正式演題は×切ました)

本会議: 17日午後1時(昼食無)~19日(金~月) 午後2時(昼食後解散)

オプション セミナー: 19日(日)午後1時(昼食無)~20日(月)午後2時(昼食後解散)



建物



合宿所の前面庭



裏庭



富士浅間神社

今後の詳細：<http://www.islis.a-iri.org/>

演題申込 ☆発表の申込に必要な事前提出原稿詳細は別紙の一覧をご参照ください。

申込方法: 発表希望部門と種目及び下記を、下記 **ISLIS** 本部事務局まで E-mail または Fax でお申込下さい。

発表の筆頭演者は **ISLIS** 会員に限ります(ただし、学術発表は専門会員・正会員・学生会員に限ります)。

今からの入会申込も可。

提出物・締切: 審査・プログラム・ホームページ用 和文原稿: 題名、氏名、所属、肩書、要旨(学術部門は当学会様式和文要旨 400 字以内、一般部門 200 字以内)、E-mail 等連絡法、ホームページ(有れば):

2012 年 6 月末日 / 英文原稿: 6 月末日

学術部門は更に: 学会誌用 発表論文(7'00'デイングス)原稿(当学会様式) 英和:6 月末日

種目: 学術研究発表、事例報告、症例報告、発表、講演、経験報告、セミナー、ワークショップ、実演、実技指導、ポスター、展示

参加会費 下記は、標準室料金(定員、相部屋)です。

追加料金: 1人部屋 1泊 +1万5千円、2人部屋 1泊1名につき+5千円

本会議 4万円(17日2泊6食)、1泊のみ3万円(17日または18日3食付)、

オプションセミナー 3万円(19日1泊3食)、 毎日懇親会・会議費含む。

割引: 両方参加割引=パスポート 6.5万円(5千円引き後額)、

**ISLIS** 会員(3千円引)、**IRI** 会員・**NS** (正・準) 会員(2千円引) 割引制度の併用不可。

お振込先: みずほ銀行(0001) 稲毛支店(336) 普通 **4093143**

上記はシンポ(合宿)参加費専用口座。**ISLIS** 年会費他は、上記に振込まないで下さい。

名義 国際生命情報科学会 電話 043-255-5481 fax 043-255-5482

主催 国際生命情報科学会(**ISLIS**:イリス)

共催: 国際総合研究機構(**IRI**:アイリ)、超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会(**NS**)

大会長 山本 幹男 **ISLIS** 理事長・編集委員長(国際総合研究機構(**IRI**)理事長)

[nspoiri@gmail.com](mailto:nspoiri@gmail.com) 090-9232-9542 Fax 043-255-9143

発表・参加申込、質問先: [islis@a-iri.org](mailto:islis@a-iri.org) Fax 043-255-5482

ご質問: ISLIS 本部 古谷祐子 早朝 043-255-5481 複雑な事 上記 大会長 山本幹男 へ

山本 幹男 (大会長、*ISLIS*理事長・編集委員長、国際総合研究機構 (*IRI*) 理事長)  
第34回生命情報科学シンポジウム 不思議現象を説明できる  
「新しい世界像を求めて」Ⅵ 開催趣旨、外来者紹介

国際生命情報科学会(*ISLIS*)は、1995年の創設以来、こころや精神を含んだ不思議現象の存在の科学的実証とその原理の解明を主目的として来た。17年間に生命情報科学シンポジウムを34回主催し、国際学会誌Journal of International Society of Life Information Science (*Journal of ISLIS*)を年2号定期発行し、総計5,000頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。この間不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし、その原理の解明はほとんど進んでいない。そこで、第6回目の標記の合宿に富士に集い、下記を実施する。スピリチュアル・ヒーリング、気功、潜在能力、超常現象、超心理現象など、現代科学で説明が出来そうも無い不思議現象が多種存在している。各界の世界像を知り、不思議現象を説明可能な世界像を合宿討論で追求する。また、統合医療・代替医療の実践体験の交流を行う。また、参加者による気功・セラピーなど各種健康増進、自然治癒力、能力開発、自己啓発などの講演・実演・実技指導等で各界の交流を図る。オプションでは各講師の分野について理解を深める。

講演

**CRAIG JUNJULAS (クレイグ・ジュンジュラス) 科学とスピリチュアリティ**  
(“ハイヤー・セルフ・ディスカバリー” 主宰、サイキック・スピリチュアル・コンサルタント)

なぜ、過去において神秘主義、また、サイキックやスピリチュアルなパワーや教えが隠されてきたか？そして、今、なぜ、それが公開されているのか？科学とスピリチュアルは境界を超え共同研究しなければならない必然性がある。

講演

**河野 貴美子 (ISLIS副会長、国際総合研究機構 (IRI) 副理事長) 錯覚と脳の機能**

昔からさまざまな錯視の現象が知られている。「錯覚」という言葉から、あたかも脳が間違えて解釈しているように思われているが、脳にとってそれは、生まれてこの方、外界とのやり取りの中で学習しながら、正しく処理してきた結果であり、非常に機能的・効率的な処理を行った結果である。さまざまな錯覚の例とともに、脳における神経回路構築過程とその効率的な情報処理機能について考えてみたい。

**ミニ・シンポテーマ：いかにすれば、幸福で平和な未来社会・世界を創れるのか？**  
—新たな文明への転換点にあたり

① **IRI幸福社会研究所 (IRI-WHI) 創立の背景**

山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)、IRI幸福社会研究所 (*IRI-WHI*) 所長

平和で幸福な世界の理念研究所創設構想を10年ほど温めて来て、昨年から会議を重ねた結果、既存のNPO-国際総合研究機構(*IRI*)の中に、IRI 幸福社会研究所(*IRI-WHI*)を2012年6月9日に創立しました。この目標として掲げたのは：1. 「もっともっと」から「わくわく」へ (GDPからGNHへの転換)、2. 人・社会・自然の～ときめき響合～、自然との共生・エコロジー・脱原発、3. いきがいの持てる、人創り・社会創り、自他思う心豊かな、自由・民主・平等・平和な社会、です。潜在意識の深い所まで掘り下げて、皆で、理念・政策を研究討論し、提言しようとしています。初仕事は原発・電力政策です。あなたのご参加を心待ちにしております。 <http://www.a-iri.org/whi/>

② **幸福とは？—古代の叡智と潜在意識の探求**

斉藤 大法 (僧侶、医師、IRI幸福社会研究所 (*IRI-WHI*) 主任研究員、四方僧伽)

幸福には、大別して二つのタイプがあります。古代の賢人は、その一方をほんとうの幸福として明確に捉えていました。それは、深いレベルの幸福であり潜在意識の探求とも言うべきものでした。現代の社会・経済システムは、もう一方の幸福の追求に根ざしたものであり、結局のところそれは人々を幸せに導かないものです。そればかりか様々な困難をもたらすものである、ということが明らかになってまいりました。私は、幸福ということの追究に今日の地球規模の危機を根本から克服してゆくひとつのポイントがあると考えます。

③ **幸せについて：自殺の社会背景と脳生理からの一考察**

坪井 宏仁 (金沢大学 医薬保健研究域・准教授、医師、博士(医学))

幸福を考えるにあたって、一般にはその対極にあると考えられる自殺を取り上げてみたいと思います。社会のために命を捧げるといふ大志による自殺もありますが、多くの場合は幸福からは程遠い状態で起きるものでしょう。ここでは、幸福の社会実現のヒントとなるよう、自殺を社会的側面から眺めてみます。また、古典的ではありますが、脳の快感中枢と嫌悪中枢に関する実験を紹介し、喜びや幸せについて考察してみたいと思います。

④ **幸福で平和な未来世界を築く—世界システムにバランスする**

上川 泰憲 (僧侶、四方僧伽 事務局長)

私も四方僧伽は、現代の世界システム(政治・経済)に対して倫理感・正義感・愛・慈悲・利他の心といった「人間の主義」に基づく世界規模の恒常的なバランス・パワーを創造するというビジョンを持ち、そこへ向けたグラス・ルーツ・レベルからの実践活動を行っています。現在その運動は、アジアを中心とする二十数ヶ国に広がり、国境を超えたネットワークを形成しつつあります。

## ⑤ 日本政府の原子力発電・電力政策への提言

山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)、IRI幸福社会研究所 (IRI-WHI) 所長  
nsnpoiri@gmail.com http://www.a-iri.org/whi/

IRI 幸福社会研究所(IRI-WHI)を2012年6月9日に創立し、その初仕事として、討論をし、2012年8月初めに「日本政府の原子力発電・電力政策への提言」を提出しました。それは、以下の政策を含んでいます：日本の節電・省エネルギーへの転換、全原子力発電の早急な停止、グリーン・エネルギーの早急な開発推進、送電発電の分離・発電の自由化、総括原価方式の廃止、家庭の電力料金で大部分の利益を上げている事の公平化。また、上記の政策で産業と雇用の活性化も図るものです。この提言は上記ホームページに掲載されています。ご意見をお寄せ下さい。

## 18・19 土・日 本会議

ワークショップ

**CRAIG JUNJULAS (クレイグ・ジュンジュラス) (18日 土曜日)**

“ハイパー・セルフ・ディスクバリヤー” 主宰、サイキック・スピリチュアル・コンサルタント

**アセンションはすでに始まっています(参加体験型のワーク・ショップ)**

クレグと共に、アセンション・エネルギーを体験しませんか。

アセンションエネルギーは、常に存在していました。しかし、ようやく、人々はその事実に目覚めてきたのです。マヤ暦の2012年12月への期待と恐れ、銀河系の星々の整列の意味などがマスコミで騒がれていますが人類にとって、アセンションの真の意味と目的とは、何か？

クレグ氏の誘導のもと、高い波動を体感し、その原理を追及しながら、光輝く存在となりませんか。

講演・実技指導

**神沢 瑞至 (気療塾学院 学院長) 気療で健康増進 - 気療実施指導**

私たち人間は、他の動物と同様に身体から「生命エネルギー」を発散しながら生きています。両手の五本の指からも当然、生命エネルギーが発散されています。私たちは、脳が主体の「運動機能」により、両手の五本の指を自由自在に動かすことができます。しかし、私たちの両手の五本の指には、もう一つの機能があります。それは脳幹が主体の「癒しの感覚機能」です。癒しの感覚機能としての、両手の五本の指には、生命エネルギーを発散する機能と、人間や動物が発散する目には見えない生命エネルギーを感じる機能の二つの機能が秘められています。この癒しの感覚機能の存在を知る人は、少ないと思います。両手の五本の指は、「気療理論」と「気療実践」の“要”です。癒しの感覚機能には、「自己治癒力」と「他者治癒力」の二つの治癒力があります。これを『自他治癒力』といいます。自他治癒力は、病気やケガの癒しの効果と病気の予防効果があります。今回は、両手の五本の指と自他治癒力との関係を詳しく説明しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

実演

**大山 玄 (多摩リハビリテーション学院)**

**ストレインゲージを用いた呼吸法の計測 一測定原理と測定実演一**

発話時の腹部、胸部の呼吸動作を計測する簡単な装置を作成した。センサーにはストレインゲージを用いた。このセンサーは長さが増減するにつれて抵抗値が増減するものであり、専用のアンプをもちいて出力をみれば、胸と腹の動きを実時間で視覚化出来る。我々はこの装置を歌声等の訓練に用いている。この装置は呼吸法の訓練にも有用と思われる。

研究発表

**小久保 秀之 (国際総合研究機構 生体計測研究所) 春における蛍光測定法のBio-PK検出能導**

筆者らは非接触ヒーリング (bio-PK) パワーの通年測定可能な測定法の確立を目指し、キュウリ切片の切断面に蛍光物質が生成されることを利用する蛍光測定法を開発し、晩秋のキュウリでは562nm帯の傾向でbio-PK効果を検出できることを確認した。本研究では、早春のキュウリを使ってガス測定法と蛍光測定法の関係を調べた。一般公募ヒーラー8名による実験の結果、535nm帯と562nm帯の蛍光がbio-PK効果の検出に有効であること、蛍光物質の増減の方向の意図的制御はむずかしいことなどを確認した。

研究発表

**河野 貴美子 (ISLIS副会長、国際総合研究機構 (IRI) 副理事長)**

**気功、瞑想、各種ヒーリングにおける脳波の解析**

筆者は今まで様々な気功、瞑想、ヒーリング等の特徴や効果を施術者およびその受け手の脳波から検討してきた。今回、気功や太極拳における身体の動かし方といわゆるストレッチや体操等、筋肉運動による身体の使い方との違い、また、気功、瞑想、ヒーリング等における内的状態の差異ならびに共通点などを脳波により検討した。筋肉の活動を惹起する脳の神経活動が、経時的に表示される脳波に反映される量は非常に小さく、時系列的変化を直接測定することは難しい。しかし、筋肉の動きにより生じる筋電図はその低周波部分がβ帯域に混入するため、脳波の各周波数帯域が全体に占める割合変化から、ある程度推定可能である。気功・太極拳ではベテランになるほど筋力を使わずに動いていることが示唆された。各種実験では多くの場合、同時に瞑想も行った。瞑想では、前頭部にα波が増大し、θ帯域の平均振幅値も増大することが多い。近年アメリカから導入されたシータヒーリング中の脳波も、気功や瞑想とともに解析したところ、瞑想類似のθ波もときにみられ、ヒーリング効果につながっていることが考えられた。

19日 午前 本会議 講演&ワークショップ

串田 剛 (横浜緑園丘の上クリニック 院長)

統合医療におけるエネルギー、スピリチュアルヒーリング応用の可能性

—シータヒーリング施術中の血液、心理、生理学的データの間接報告を混えて—

(講演後一人30分程度の体験会をご用意しております---。(3名程度))

潜在意識の信念体系を変えて病気の軽快をはかる心理療法、やエネルギーヒーリング、スピリチュアルヒーリングは日本の医療の分野での社会的認知度は低い。そうした手法を合わせたシータヒーリングを紹介し、その応用の可能性を探る。今回は中間報告ではあるが施術を受けている最中の脳波、生理学的データ施術前後の、心理テスト、血液免疫データの集積を開始したのでその中間報告聴講した方への体験セッションも行う。

19日 午前 本会議

ミニ・シンポジウム 前世療法がもたらす癒しと知見

大門 正幸(中部大学)、大槻 麻衣子(大槻刺灸院)、岡本 聡(中部大学)、林 和枝(中部大学)

前世療法(あるいは「過去生」への退行催眠)に大きな癒しの効果があること、また、それによって人生に関する様々な気づきが得られることは、多くの実践例によって裏づけられている。本ミニ・シンポジウムでは、ブライアン・ワイス式前世療法の施術者である大槻が経験した最も劇的な事例の紹介と、岡本、林、大門の3人が実際に施術を受けて得られた体験の分析を通して、前世療法の持つ可能性について探っていく。

大槻 麻衣子(大槻刺灸院) 前世療法がいかに覚醒を促すか

ブライアン・ワイス式前世療法が寄って立つ基本的概念は、「その個人について最も良く知っているのは本人の潜在意識である」よって、「セラピストはクライアント本人の潜在意識の叡智に、いつ/どこへ退行し、何に注目するかを委ね、導いてもらう」というものである。今回のシンポジウムでは、このような姿勢から施術される前世療法が、いかに古いネガティブな感情を解放(エモーショナル・リリースメント)し、より深淵でより次元の高い洞察をもたらすか、そして結果としてその個人をさらなる霊的覚醒へと導くということについて、特徴的な事例を挙げながら、発表する。

林 和枝(中部大学 生命健康科学部) 前世療法を受けての一考察

前世療法とは、セラピストの催眠誘導により、クライアントの前世の記憶を潜在意識から浮かび上げ、現在の人生における不全感や問題の解消する心理療法である。また前世療法には、現在の人生の意義への気づきや癒し、潜在能力の開発といった効果があると言われている。今回のシンポジウムでは、筆者が初めて施術を受けた体験を通して得た知見とその効果について発表する。

岡本 聡(中部大学 人文学部) 前世療法体験に関する報告

本発表では、大槻麻衣子氏のブライアン・ワイス式前世療法の施術を受けた際の主観的な報告をしたい。どのような体験かを順を追って紹介していく。私自身の前世イメージとして現れたものは、江戸時代末期から明治初年に生きたと思われる人物で、土佐藩の下級武士から岩崎弥太郎周辺で三菱の船の関係の会社に勤めた人物であるという結果となった。ここから前世体験の客観性やその現世的意義についても考察してみたい。

大門 正幸(中部大学 共通教育部) 前世療法体験に関する報告

前世療法におけるいわゆる前世体験には、Ohkado et al (2009, 2010)やWambach (1978)、Whitton and Fisher (1986)、Williston & Johnstone (1995)などで報告されているような、事実と合致する例がいくつも報告されている。しかしながら、Baker (1982)やSpanos et al. (1991)、Venn (1986) が示しているように、体験には施術者による暗示や被験者の創造が入り込む余地が十分あり、検証せずに体験を事実と判断するのは危険である。本発表では、前世体験の真実性の検証については棚上げし、また、客観的分析という観点からも離れて、報告者がブライアン・ワイス式前世療法の施術を受けた際の(報告者にとっては)劇的な体験について主観的に報告したい。また、前世体験の後、一週間ほど続いた、影響についても触れる予定である。

本会議 夜の自主交流会

神沢 瑞至 (気療塾学院 学院長)

気療で健康増進 - 気療実施指導

上川 泰憲 (四方僧伽事務局長)

17日 東日本大震災ボランティア活動一大船度のカフェ『お茶っこ』(VTR)

CRAIG JUNJULAS (クレイグ・ジュンジュラス)

オーラ視、色々な瞑想方法とその実用

林 弘美 (日本ヨーガ瞑想協会認定講師)

17日・18日 一日の疲れを癒すヨーガ(実習) 古来より伝わる心身一如の世界

## 本会議 夜の自主交流会

永草 美保 (神塾 リラの会 代表、iRest (統合的回復) 上級者トレーニング修了) <http://www.jinjuku.com/rela/>

17日 寛ぎのiRestヨガニドラ (楽な姿勢で声に従って身体を感じることで潜在意識に隠された心の傷が癒されます)

18日 自分の本質を探るiRestヨガニドラ

1:1でのiRestセッション: 各自ご希望の時間帯(1人30分程度)をお知らせください。身体を感じていくことで、自分の取るべき行動が解ってきます。自分の本質に気付くことができるかもしれません。

今回のシンポジウムでは、このような姿勢から施術される前世療法が、いかに古いネガティブな感情を解放(エモーション・リリースメント)し、より深淵でより次元の高い洞察をもたらすか、そして結果としてその個人をさらなる霊的覚醒へと導くということについて、特徴的な事例を挙げながら、発表する。

iRes <http://www.irest.us/> iRestのリサーチ情報 <http://www.irest.us/programs/irest-research-and-programs>

## ブース

CRAIG JUNJULAS (クレイグ・ジュンジュラス)、吉野 晶子



山本幹男



坂本政道



神沢瑞至



斉藤大法

19日 午後 ~ 20日 午前 オプション・セミナー 2012年8月6日

以下の中から申込時に1つ選択

坂本 政道 (モンロー研究所 レジデンシャル・ファシリテーター、アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役、国際生命情報科学会(ISLIS) 理事)

### プチ・ヘミシンク体験

ヘミシンクは聴く人を知覚・意識の拡大した状態へ導くことで、体外離脱に代表されるさまざまな不思議体験を可能とします。たとえば、遠くの様子がわかったり、知人が何をしているか把握できたり、人の思いが伝わってきたりということが起こります。あるいは、さらにガイドと呼ばれる存在との交信や、過去世体験、死後世界の探索、宇宙探訪といったことが可能となります。心の中に隠された過去に起因する種々の傷やトラウマを解消することも可能となります。

今回のセミナーはその基礎となるものです。ここでは、ヘミシンクの初歩について実際に体験します。

◎参加者は以下を持参: ・ヘッドフォン(長時間聴きますので、大き目の耳がいたくならないもの) ヘッドフォン・ジャック仕様: 3.5mmステレオミニジャック・アイマスクまたは目を覆う黒っぽいタオル・筆記用具・飲み水

神沢 瑞至 (気療塾学院 学院長) 気療で健康増進 - 気療実施指導

テレビでも高名な、動物の群れを遠くから眠らせる術者。私たち人間は、他の動物と同様に身体から「生命エネルギー」を発散しながら生きています。両手の五本の指からも当然、生命エネルギーが発散されています。私たちは、脳が主体の「運動機能」により、両手の五本の指を自由自在に動かすことができます。しかし、私たちの両手の五本の指には、もう一つの機能があります。それは脳幹が主体の「癒しの感覚機能」です。癒しの感覚機能としての、両手の五本の指には、生命エネルギーを発散する機能と、人間や動物が発散する目には見えない生命エネルギーを感じる機能の二つの機能が秘められています。この癒しの感覚機能の存在を知る人は、少ないと思います。両手の五本の指は、「気療理論」と「気療実践」の「要」です。癒しの感覚機能には、「自己治癒力」と「他者治癒力」の二つの治癒力があります。これを『自他治癒力』といいます。自他治癒力は、病気やケガの癒しの効果と病気の予防効果があります。今回は、両手の五本の指と自他治癒力との関係を詳しく説明しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

斉藤 大法 (NPO心のケア 大樹の会 代表、四方僧伽メンバー、僧侶(日蓮宗)、医師)

### 大法(だいほう)さんの幸福のいしずえ瞑想&ダイアログ

3.11以降、わが国に於いては、意識変革を伴ったパラダイムシフトが起こりつつあります。それは、誰か他から与えられるものではなく自らが「本当に求めているものは何か=ほんとうの幸せ(社会)とは」という根源的な問いの中から見出されるべきものです。今回のセミナーは、そうした幸福の礎(いしずえ)となるものを深く体験的に知り発展させてゆく試みです。

<瞑想(人類普遍の叡智の一つである仏教経典に基づくダイナミック瞑想)>

①悲しみや不安から解放され

②心の扉が開かれてゆき

③真のわたしが湧き出てくる=大いなるもの、人、自然とつながる生き方が起こってくる

<ダイアログ(深い対談)>

親しい対談(各人の自由な発想を尊んでゆくもので正解を導き出すことを目的とするものではありません)を通して幸福な未来社会を描き出してゆきましょう。

※ここで話し合われた内容は、幸福社会研究所の理念、政策立案・提言に反映される可能性があります。

